



施設職員として、社会に出るあなたへ

児童養護施設 名古屋文化キンダーホルト
児童指導員 千代 誠

私が児童養護施設「名古屋文化キンダーホルト」で児童指導員として勤め始めて15年が経ちました。

その中で何名かの子ども達を社会に送り出してきました。

高校を卒業し、自衛隊に入隊した子や

中学校を卒業し障害者の共同生活施設に生活の場を移した子、

また、高校卒業間際の12月に本人の希望で退学し清掃会社に就職した子など

それぞれの進路を歩んでいます、

どの子を送り出すときも胸の中は期待以上に不安が大きかったです。

そんな中、昨年、私が勤め始めて最初に担当したK君から連絡をもらいました。

彼は当時中学3年生だったので、すでに30歳近くになっていました。

話を聞くと、自ら小さいながらも会社を立ち上げ、数人の従業員を雇用している立派な社長になり、清掃業をしているとのことぜひボランティアで施設の清掃をしたいと申し出てくれました。

当日になり、彼は明らかに自分よりも年配の従業員数人と自分の家族を連れて来てくれました。

彼の施設での生活は不登校や警察の厄介になることもありましたが、

現在の彼の表情からは事業主としての責任感が感じられました。

清掃の間に彼と話をしてみると、やはり当時は注意や指導は素直に聞けなかったが、今になって理解できることがたくさんあったと話してくれました。

その時に私の中にあった当時から感じていた、伝わっていたかどうか分からずにいた気持ちが晴れたような気がしました。

今、施設から巣立とうとしている皆さんもそれぞれの施設の職員の方から教えられたことでも納得できないことや、実感できないことがあるかと思います。

でも、

きっとそれは皆さんが社会に出て、仲間や家族ができたときに本当の意味が分かることだと思います。

時間がかかるかもしれませんが、その報告を施設の職員は首を長くして待っています。